

2023 年度 自己点検・評価 報告書

学校法人 麻生塾
ASO ポップカルチャー専門学校

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、ASO ポップカルチャー専門学校の2023年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2024年 1月 30日

校 長 瀧口 博俊

自己点検・評価責任者

校長代行 横尾 保馬

目 次

I 教育理念・教育目標(育成人材像).....	- 3 -
II 重点項目.....	- 4 -
III 基準項目 自己点検・評価.....	- 6 -
基準 1 教育理念、目的、育成人材像.....	- 6 -
基準 2 学校運営.....	- 7 -
基準 3 教育活動.....	- 12 -
基準 4 学修成果.....	- 17 -
基準 5 学生支援.....	- 19 -
基準 6 教育環境.....	- 21 -
基準 7 学生募集.....	- 23 -
基準 8 財務.....	- 24 -
基準 9 法令遵守.....	- 25 -
基準10 内部質保証.....	- 26 -
基準11 社会貢献・地域貢献.....	- 27 -
基準12 国際交流.....	- 28 -

評価結果

S:適切

A:ほぼ適切

B:やや不適切

C:不適切

I 教育理念・教育目標(育成人材像)

教育理念

創造性を磨き、それを支える専門技術を高めます。

同時に、創造性の源となり、チームでの創作活動を支えうる人間性、人格の成長を図ります

教育目標(育成人材像)

1.ASOポップカルチャー専門学校

「在学中に成長する喜びを知ることにより、卒業後も継続して成長し、ポップカルチャー業界で活躍し続けられる人材」を育成する。

2. 各専攻、コース

(1) ゲーム・CG・アニメ専攻科ゲーム専攻(4年制)／ゲーム・CG専攻科ゲーム専攻(4年制)／ゲーム専攻科(4年制)

3DCGプログラミングからネットワークプログラミングまで、ゲームプログラマーに必要な高度なプログラム技術を習得し、業界の最先端で活躍できる人材を育成する。

(2) ゲーム・CG・アニメ科ゲームコース(3年制)／ゲーム学科(3年制)

ゲーム開発を通じてプログラム言語を習得し、ゲーム業界をはじめ、IT業界でも幅広く活躍できる人材を育成する。

(3) ゲーム・CG・アニメ専攻科CG専攻(4年制)／ゲーム・CG専攻科CG専攻(4年制)／CG専攻科(4年制)

コンピュータデザインの基礎知識と3DCG作成の操作スキルを習得し、モデリングやモーション、VFXについて深く学ぶ。ゲームやCGアニメなど幅広い分野に対応できる人材を育成する。

(4) ゲーム・CG・アニメ科CGコース(3年制)／CG学科(3年制)

コンピュータデザインの基礎知識と3DCG作成の操作スキルを習得し、モデリングやモーションについて深く学ぶ。ゲームやCGアニメなど幅広い分野に対応できる人材を育成する。

(5) ゲーム・CG・アニメ専攻科アニメ専攻(4年制)／ゲーム・CG・アニメ科アニメコース(3年制)／アニメ学科(3年制)

画力の向上のベースにデザインや質感表現、イメージ表現の専門技術を習得し、アニメーション制作に関わる全般的な技術を実践的なワークフローを通して学び、業界の即戦力として活躍できる作画力を持ったアニメーターを育成する。

(6) コミックイラスト科アニメコース(2年制)

アニメーション制作に関わる全般的な技術を実践的なワークフローを通して学び、業界の即戦力として活躍できる作画力を持ったアニメーターを育成する。

(7) イラスト学科(3年制)

画力の向上をベースにデザインや質感表現、イメージ表現の専門技術を習得し、実践的なイラスト制作を通じて業界が必要とする応用力、提案力を持ったイラストレーターを育成する。

(8) マンガ・イラスト科イラストコース(2年制)／コミックイラスト科イラストコース(2年制)

画力の向上をベースにデザインの専門技術を習得し、実践的なイラスト制作を通じて業界が必要とする応用力、提案力を持ったイラストレーターを育成する。

(9) マンガ学科(3年制)

画力の向上をベースにデザインや質感表現、イメージ表現の専門技術を習得し、漫画制作の実践基礎から空間表現に必要な技術を習得し、漫画賞受賞やプロデビューをして業界で活躍できる人材を育成する。

(10) マンガ・イラスト科 マンガコース(2年制) / コミックイラスト科 マンガコース(2年制)

漫画制作の実践基礎から空間表現に必要な技術を習得し、漫画賞受賞やプロデビューをして業界で活躍できる人材を育成する。

(11) コミックイラスト研究科(1年制)

さらに高度な技術や高いステップを目指すために個別指導を中心に学び、即戦力となれる人材を育成する。

II 重点項目

1. 重点項目

教職員全員が業務理解を深める目的で、下記項目の業務をしくみ化して運用強化を図っていく。

- ・単位制運用の整備強化
- ・カリキュラムと表の整備強化
- ・職業実践専門課程の企業連携強化。
- ・キャリア支援対策
- ・募集対策

2. 取組み状況

・単位制運用の整備強化

単位区分の計算方法や進級・卒業要件をまとめ、教職員共通のマニュアルでもある「業務 Book」に記載して共有を図った。単位制への移行期間となり、時間制、単位制が混在している状況のため、両方の単位認定方法や進級・卒業認定について資料化した。

・カリキュラム表の整備強化

学科毎に全科目の繋がりを記載したカリキュラム表を作成し、科目毎に学習内容を記載する事で授業内容の妥当性の見える化を行った。また、カリキュラム会議の資料として活用し、科目変更の検討を行った。また、定期試験のない課題提出が中心の科目については、筆記試験と同様に期限を設定し再試験同様に再提出を行うようにした。各科目の試験・課題提出内容については、クラス毎に一覧表にまとめ、試験期間前に学生全員に共有を行った。

・職業実践専門課程の企業連携強化。

学科毎に実施が必要な企業による授業については、該当企業を一覧表にまとめ、前期・後期の時間割り作成時に該当の授業が設定されているかの確認を行った。また、カリキュラム会議後の議事録の記録に関しては、保存場所を指定し確実に記録を残すように改善した。

・キャリア支援対策

就職年次の「進路決定届」「受験報告書」「状況管理表」は、毎週の担当者会議において就職担当者から状況の確認を行い、保存場所を指定する事で提出を徹底した。また、次年度就職年次の「就職実務」については、全該当クラスで実施内容を指定し標準化を図った。そのため、担任依存による内容の偏りを解消する事ができて共通の指導が行えた。

・募集対策

これまで募集活動に活用するための学習成果の集約が十分でなかったため、毎月月末に検定やコンテスト結果、クラス行事等の活動を集約する「部門報告書」を部門毎で作成した。これにより年間を通して、各部門での取り組みが集約でき、また部門を統括するリーダーも状況の把握に繋がり管理が容易になった。

・経理・事務処理・勤怠の理解

事務処理の方法については、項目毎に手順をまとめ「業務 Book」に記載を行った。その都度確認をする事ができるため、新任の教職員にも説明が容易になり業務の見える化に繋がった。

また、勤怠管理に関しては、各メンバーの勤怠一覧表を別途作成し、管理職が中心となり日々確認を行った。有給取得や残業時間は、対象者に注意喚起を行う事で上限を超えないようにフォローを行った。

3. 総括(成果と課題)

各項目については重点項目として「事業計画」に記載し共有を図った。そのため、取り組み事項が明確になり状況の把握も容易になった。各項目を資料化する事で正しい情報を共有する事ができた事は良かったが、月次での状況確認作業が十分ではなかったため、毎月行われている部門リーダーによる「リーダー会議」にて、各項目の確認を確認するなど、運用を徹底していく必要がある。

Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

中項目1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【取り組み状況】

学校の教育理念等については明文化し、ホームページ上に情報公開の項目を整え、社会に公表している。本校の理念や目的は法人の理念を基に展開しており、当該年度の事業計画書に掲載し、全教職員で共有している。また、講師会や学校関係者評価委員会でも講師や委員へ周知している。

新入生に対しては、それらを掲載した学生便覧を全員に配布し、オリエンテーションや各ホームルームにて周知、指導するとともに、グローバルシティズンベーシック教育(GCB 教育)を通して麻生塾の卒業生としてふさわしい態度や考え方を育むようにしている。課題であった非常勤講師への周知については、一人ひとりに学生便覧を配布し周知を行った。

教職員に対しては、学校の教育理念、教育目的および育成人材像を、学校独自で作成している運用マニュアル「業務 BOOK」に記載し、年初のキックオフ会議にて共有を図った。

【課題及びその改善方策】

特に課題はないが、引き続き、ホームページでの公開、関連各所への周知を徹底していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1-1-1	「学校の教育理念」を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-2	各学科の教育目標(育成人材像)を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S

=====
基準 2 学校運営
=====

中項目2-1

学校の教育理念に沿った運営方針を定めているか。

【取り組み状況】

運営方針は法人の理念と学校の理念に基づいて策定され、規定どおり運営している。

運営方針・事業計画の全教職員への共有・説明については、学校独自で作成している運用マニュアル「業務 BOOK」を作成し、年初のキックオフ会議において全体共有を図るとともに、ルールブックとして活用している。

【課題及びその改善方策】

課題は特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-1-1	学校の教育理念に沿った運営方針を策定しているか。また、運営方針を教職員に周知しているか。	S

中項目2-2

事業計画を作成し、執行しているか。

【取り組み状況】

運営方針に沿った事業計画を策定し、年初のキックオフ会議において全体共有を図った。

学生支援体制、学生募集、人材育成、出席率、退学率、分野毎の検定・コンテストの目標設定を行い、数値目標を立て管理を行った。執行状況については「分野別報告書」を作成し月次報告として毎月のリーダー会議において、状況の共有および対策の検討を行った。また、募集状況、就職状況についてはサマリーシートでの管理を行い、校長代行が毎月の経営会議にて経過報告と情報共有をしている。部門で集約した情報については、全体に通知して共有を図った。

【課題及びその改善方策】

課題は特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-2-1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S
2-2-2	事業計画は適正に執行されているか。	S

中項目2-3

運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか。

【取り組み状況】

法人としての運営組織や意思決定機関は明文化されており、有効に機能している。理事長・副理事長・常務理事・理事・本部長・監事が参加する常任理事会を毎月開催しており、組織の課題等について合議している。また、各校・各部門の校長代行、部門長以上が合議・情報共有を行う部門長会議など各階層別に必要な会議体が設計され、毎月開催されている。

学校運営については、校長代行、教務主任を中心に定例会議を行い、その後、分野毎に配置したリーダーを中心に部門会議を開催し、部門内の情報共有と意思決定の場として活用している。各部門内でリーダーによる意思決定が可能な事項に関しては「部門会議」、他部門に影響し校長代行の意思決定が必要な事項に関しては「リーダー会議」としている。レポートラインについては、業務 Book にも記載し明確化されており、年初のキックオフ会議にて全体共有されている。尚、議事録を Microsoft Teams 上で共有し、誰でも閲覧できるようにしている。

学校業務については、事務組織を設置し教務支援等、十分に機能している。

事務職員は、奨学金関連の取りまとめや安全管理を中心に業務を行っているが、資質・能力向上についての研修を適時受講できるように研修状況の一覧表を作成し計画的に取り組んでいる。

【課題及びその改善方策】

特に課題はないが、議事録への必要な記載についてガイドラインを作成し、各会議の精度をさらに高めていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-3-1	法人の運営組織や意思決定機能は規程等において明確化されているか。また有効に機能しているか。	S
2-3-2	学校あるいは部門の運営組織や意思決定機能は明確化されているか。また有効に機能しているか。	S
2-3-3	運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的で開催されているか。	S
2-3-4	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S
2-3-5	事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るための方策を講じているか。	S

中項目2-4

人事・給与に関する制度を確立しているか。

【取り組み状況】

就業規則をはじめとした人事諸規程および労使協定書は法令を遵守し整備されている。

また、法人運営方針や労働関連法改正に対応し各規程の更新を実施している。

諸規程は全教職員が閲覧できるよう電子ファイルにて公開されており、変更の際は新旧対照表とともに教職員へ周知されている。

なお、2024年度の人事制度改正に向け新制度設計の整備が完了し、学校法人麻生塾人事グループが新制度内容の変更点周知に併せ既存制度の再理解を図るよう活動をすすめている。

採用活動においては年間採用計画をもとに、募集を自社ホームページや外部媒体に適宜掲載し欠員・充足状況等をふまえ更新している。選考過程ではシステムに経過や決裁等を記録保管し、適正に活動をすすめている。

【課題及びその改善方策】

課題は特になし。諸規程は、いつでも閲覧できる状態になっているが、改めて周知徹底を図っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-4-1	人事に関する制度を整備しているか。	S
2-4-2	給与に関する制度を整備しているか。	S
2-4-3	昇給・昇格制度を整備しているか。	S
2-4-4	教職員の募集・採用は適切に行われているか。	S

中項目2-5

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【取り組み状況】

学校法人麻生塾独自の情報システムを活用し、情報の一元化と共有を図っている。

学生に周知、連絡すべきことについては担任がそれぞれ受け持ちクラスで伝達していたが、教員ごとに伝達内容に違いなどが出たため、それらを一本化して Microsoft Teams による全学生向けの掲示板を作成し運用を行った。これにより情報の内容が均一化し、記録も残り何度でも確認できるため、伝達ミスが減少し学生からの問い合わせも圧倒的に減少した。この掲示板は、緊急連絡、各種申請、検定試験、注意喚起など、学校生活に必要とされる情報を分野毎にまとめている。

毎日の朝礼についても、「朝礼通信」として、伝達事項を掲示板に書き込み共有を図った。

【課題及びその改善方策】

課題は特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-5-1	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	S

=====
基準 3 教育活動
=====

中項目3-1

教育理念、教育目標(育成人材像)に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【取り組み状況】

ディプロマ・ポリシーならびにカリキュラム・ポリシーについては役職会にて決定したものを明文化し、全教職員にて共有している。学生に対しては学生便覧にて、非常勤講師には講師会にて周知している。また、社会に対してはホームページにて公表している。

カリキュラムは教育課程編成委員会で検討し、教務会議にて決定の上、編成している。適切な教育が行われているかの検討会議を行ない、定期的に検証と改善を図っている。

また、各授業における講義内容や課題設定についての集約を行い、分野毎のカリキュラム会議で科目間の繋がりや教育目標に適した内容であるかの検討を行った。

【課題及びその改善方策】

特に課題はないが、育成人材像については日々変化をしていく分野特性があるので、授業構成や内容の変更に合わせて見直しを行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-1-1	教育目標(育成人材像)に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S
3-1-2	教育目標(育成人材像)に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S

中項目3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【取り組み状況】

業界の人材ニーズに対応できるよう教育内容の定期的な見直しを行い、教育の充実を図っている。実践的な職業教育を目指し、分野毎、企業と連携した演習科目を教育課程に体系的に設定した。教育課程編成委員会の実施後に各分野の教員によるカリキュラム会議を行い、より実践的な教育課程編成とそれに基づいた授業科目になるよう見直しを図った。

授業及び実習に関するシラバス、コマシラバスを作成し、学生に公開している。

キャリア教育については、キャリアデザインの授業において就職ガイドブックを活用して、学生の社会的・職業的自立に向けて必要な能力と態度の育成を図っている。また、次年度就職年次の「就職実務」については、全該当クラスで実施内容を指定し標準化を図った。そのため、担任依存による内容の偏りを解消する事ができて共通の指導が行う事ができた。

【課題及びその改善方策】

特に課題はないが、業界就職には、それぞれの分野に合った作品制作が欠かせないため、常に変化していく求める人材像に向けて課題内容の見直しを、カリキュラム会議の中に盛り込んで検討していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容(学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等)が提供されているか。	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S
3-2-4	授業科目の目標を達成するための授業内容や授業方法になっているか。	S
3-2-5	授業及び実習に関するシラバスは作成しているか。	S
3-2-6	シラバスに基づいてコマシラバスを作成しているか。	S
3-2-7	授業はシラバス及びコマシラバスに基づいて実施しているか。	S
3-2-8	専攻分野における実践的な職業教育(インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等)を教育課程に体系的に位置づけ、実施しているか。	S
3-2-9	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S

中項目3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【取り組み状況】

学生による授業アンケートを前期・後期末に全科目に対して実施し、中間・期末の個人面談時に、各教員に結果をフィードバックし、授業の振り返りを行うとともに実施方法の改善に取り組んだ。更に、経験の浅い教員については、適時ミニアンケートを活用して早期に授業を評価ができるようにしている。また、教員毎に「授業報告書」として全担当科目の授業運営状況を月次で報告する仕組みを構築し、全教員で共有できるようにして授業進捗の確認を行った。

【課題及びその改善方策】

フィードバック時の記録が十分でないので、伝達内容の記録を残していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-3-1	授業評価体制を整備しているか。	S
3-3-2	学生によるアンケート等で定期的に授業評価を実施しているか。	S
3-3-3	授業科目の目標に照らし、教育内容・授業方法が適切であるか確認しているか。	S
3-3-4	授業評価の結果を教員にフィードバックしているか。	A
3-3-5	授業評価の結果をもとに、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	A

中項目3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【取り組み状況】

全ての科目で成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確に定められており、正試験または正試験に準ずる方法で適切に評価している。また、評価規程については学生便覧等にて学生に周知している。

遠隔授業における成績評価・単位認定についても、所轄官庁および法人の基準に則り、適切に運用されている。

各科目の試験・課題提出内容については、クラス毎に一覧表にまとめ、試験期間前に学生全員に共有を行った。また、成績評価に関する評価基準に関しても、筆記試験、作品課題ともに具体的な採点基準を科目一覧にまとめ、学生に事前周知した。

【課題及びその改善方策】

課題は特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S
3-4-2	学生や保護者等に、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準、進級要件、卒業要件を適切に明示しているか。	S
3-4-3	各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S

中項目3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【取り組み状況】

教員要件・定員に対する法令に基づき必要な人員を配置するなど教員組織の体制は整備されている。

教員の専門性や指導力を向上させるための研修参加について、全体で一元管理を行うとともに、分野毎に計画して参加することで教員の能力・資質向上を図った。

分野単位でリーダーを配置し、教員同士が連携して教育内容の向上や学校運営を効率的かつ適切に行っている。学校行事や委員会などの通常授業外の業務においても、適宜業務分担を行い業務の平準化を図り教職員全体の質の向上に取り組んだ。月末の「部門報告書」での報告や、月例で実施されるリーダー会議で共有を行った。

【課題及びその改善方策】

特に課題はないが、分野毎の専門性の拡充や、変化する業界に合わせたスキルアップについては継続的な取り組みが必要となっている。分野リーダーによる働きかけが活発になるように意識付けを強化していきたい。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-5-1	法令に則り、学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S
3-5-3	教員に必要な知識・技能を身に付け、資質・能力の向上を図るための取り組みを行っているか。	S
3-5-4	教員に対して、専攻分野に係る関連分野の企業等と連携して、実務に関する研修・研究に組織的・計画的に取り組んでいるか。	S
3-5-5	教員に対して、企業等と連携して、指導力・教授力を習得、向上するための取り組みを行っているか。	S

=====
基準 4 学修成果
=====

中項目4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【取り組み状況】

成績、検定取得、退学者等の目標値については事業計画の中で全教職員に周知している。進捗状況については、毎月クラス運営報告書で各クラスの状況を報告し、月例会議にて学校全体で状況を共有した。就職指導についても週1回の担当者会議を実施して進捗管理を行った。また、それらについては全体把握のために管理表を作成し各教員で共有している。

退学防止については、課題内容を一元管理することで課題提出時期が重複しないような予防措置を取り、学生の負担軽減につなげた。また、美術展鑑賞やミュージカル観劇など、学外での活動を増やすことで、学生のモチベーションを維持し視野を広げる活動を積極的に行った。

【課題及びその改善方策】

特に課題はないが、検定試験やコンテスト出展の目標設定・運用・結果について、学科毎で更に明確にして、カリキュラムとの繋がりを強化できるように取り組んでいく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上の取り組みを行っているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか。	S
4-1-2	資格取得率、公務員合格率及びコンテスト・コンペ入選数の向上の取り組みを行っているか。また結果を分析し、教育活動及び学生支援の改善を図っているか。	S
4-1-3	資格取得等に関する指導体制及びカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	S
4-1-4	退学率の低減が図られているか。また結果を分析し、退学率を低減させる取り組みを行っているか。	S

中項目4-2

卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか。

【取り組み状況】

学校法人麻生塾就職グループ(以下、「就職グループ」という。)が中心となって、就職先の企業様のご協力をいただき卒業生向けのアンケートを実施した。アンケート結果により離職率の把握を行った。また、就職担当職員が企業から直接ご意見を伺った際は、教員へ共有し部門会議やカリキュラム会議で検討を行っている。

【課題及びその改善方策】

卒業生の状況把握が就職グループに留まっており、学校との共有があまり図られていない。卒業生アンケート結果を就職グループと共有して、学校としての状況把握に繋げていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
4-2-1	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	S
4-2-2	卒業生の卒業後の動向や就業状況を調査・把握しているか。	A

=====
基準 5 学生支援
=====

中項目5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【取り組み状況】

学生相談室の活用の利便性向上のため、利用申込方法を記載した案内カードを名札の中に入れて常に持参させるようにして思い立ったら申し込みができる仕組みにした。保健室も2部屋を増やし利便性を向上させている。

学内に就職専任スタッフを配置し、担任とともに求人案内や受験支援を行っている。Microsoft Teams 上でも就職スタッフと対象学生の共有グループを作成し、情報伝達を行っている。

各種支援金制度や奨学金の案内については、案内資料とともに Microsoft Teams の学生ポータルを活用し確実に周知することができた。

卒業生に対しても、再就職相談や再就職斡旋などを行う専用サイトを設けサポートを行っている。

部活動の案内については、Microsoft Teams の学生ポータルを活用し周知している。

【課題及びその改善方策】

課題は特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
5-1-1	学生の就職・進路支援を適切に行っているか。	S
5-1-2	学生相談に関する体制を整備しているか。	S
5-1-3	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S
5-1-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S
5-1-5	学生の生活環境への支援を行っているか。	S
5-1-6	保護者等との連携を適切に行っているか。	S
5-1-7	卒業生への支援体制を整備しているか。	S
5-1-8	社会人学生への支援体制を整備しているか。※	評価除外
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S

5-1-10	学生に対する修学支援体制を整備しているか。※全学校・APS は任意	S
5-1-11	入学前教育や学力不足を補う補習教育などの学習支援を行っているか。 ※全学校・APS は任意	S

※社会人学生とは、学生のうち、職に就いている者(給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者)をいう。

=====
基準 6 教育環境
=====

中項目6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【取り組み状況】

基本となる施設、設備については関係部門と連携し、年度毎に教室の見直し及び設備の補充をしており、かつ良好に管理ができています。また、自宅でオンライン授業を受講するために必要となる推奨環境について資料化し、新入生向けの入学説明会において案内を行った。

麻生専門学校グループ福岡キャンパスの共用施設として、総合図書館を設置している。総合図書館では、規程やルールを定め学生便覧に掲載するとともに、教室内へ利用案内を掲示するなど、学生への周知を図っている。また、固定資産管理規程に基づき、図書や書籍を含む資料類は適切に管理している。

【課題及びその改善方策】

特に課題はないが、校内の施設・設備に関しては定期点検を通じて早期に不備を発見し、適切な維持・管理を行っていく。教育機材等の管理については台帳を整備し、適切に管理・運用していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	S
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	S
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S

中項目6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【取り組み状況】

学内外の安全対策に関しては、防災、防犯設備の点検を行っている。

学校全体での避難訓練を、火災・地震とも避難訓練用の全館放送を通して実施した。また、避難経路を全教室と共用部に掲示し教職員・学生への周知徹底を図った。

また、学生の登下校及び学校生活における防犯等については注意を促しており、安全確保に配慮している。

インターンシップの手続き書類、保険、報告書類などの整備した。

【課題及びその改善方策】

特に課題はないが、避難訓練の実施が9月になったため、年初の早い時期に実施するように調整していく。また、非常勤講師の方は参加できていなかったため、避難経路等の説明を別途実施していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-2-1	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S
6-2-2	学校における安全管理体制の整備を行っているか。	S
6-2-3	定期的に防災訓練を実施しているか。	S

=====
基準 7 学生募集
=====

中項目7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【取り組み状況】

教育目標(育成人材像)に基づき策定したアドミッション・ポリシーを全教職員に周知し、募集要項及びホームページにて社会に公表している。

入学者選抜では感染症拡大の懸念から、オンラインと来校による実施体制を整えており、運用に関するノウハウをMicrosoft Team で共有することで、公正かつ適切に入学試験を実施できている。

教育成果については、パンフレットやホームページにより卒業後の進路を中心に情報の公開している。

入学のミスマッチ防止の目的で、学科選択に不安がある対象者には、入学選抜の時に別途、学科説明のガイダンスを実施している。

【課題及びその改善方策】

特に課題はないが、積極的に取り組んでいる高等学校での進路ガイダンスへの参加を継続し、入学対象者(高校生)および高等学校が上級学校に求めるニーズを把握し、学生募集活動に反映させていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表しているか。	S
7-1-2	募集活動において、教育成果を含めた学校情報は正確に伝えているか。	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S
7-1-5	校納金(学生納付金)等は妥当なものとなっているか。	S

=====
基準 8 財務
=====

中項目8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【取り組み状況】

財務基盤は安定しており、貸借対照表や資金収支計算書にみる各種残高および基本金積み上げ額は、学生に必要かつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えている。

予算計画については、予算決算管理及び昨年度対比による分析等の取り組みを行っている。その取り組みにより重要な差異や変動を把握し、対応策の検討、その実施を積み重ね、外部環境の変化等に耐え得る安定した財務基盤の維持を図っている。

また、私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。なお、ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を適切に公開している。

【課題及びその改善方策】

課題は特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また事業・予算計画に基づき適正に執行管理されているか。	S
8-1-3	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

=====
基準 9 法令遵守
=====

中項目9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【取り組み状況】

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっている。教育環境については担当部門と協議し、教室設備の見直し、教員配置の確認を行っている。

関連法令等において、新設・改定・変更等がなされた場合において、法人本部の助言と協力を受け適切に運営を行っている。

【課題及びその改善方策】

特に課題はないが、個人情報保護規程の取り扱いについて、教職員会議の場などで定期的な発信と共有に継続して取り組んでいく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S

=====
基準10 内部質保証
=====

中項目10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【取り組み状況】

教育活動及び学校運営について、自己点検・評価を実施し改善項目の抽出を行った。その結果に基づいて、改善計画を作成のうえ改善活動を行った。自己点検・評価結果はホームページで公開している。

また、学校関係者評価委員会を開催し、教育活動及び学校運営に関する検証を行っている。会議にあたっては事前に自己点検報告書を配布し、各項目に対しての評価をヒアリング用紙に記入して頂くようにしている。その結果はホームページにて公表し、社会に対する説明責任を果たしている。

【課題及びその改善方策】

自己点検・評価活動は改善しているものの、個人レベルでの活動としてはまだ十分ではない。自己点検・評価の評価項目を部門内全体に共有し、日常業務として取り組む必要性を周知していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、組織的に自己点検・評価を実施しているか。	A
10-1-2	自己点検・評価の結果に基づき、学校教育と学校運営の質の改善と向上のための取組みを組織的に、積極的かつ継続的に行っているか。	S
10-1-3	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施しているか。	S
10-1-4	学校関係者評価結果をもとに改善の取組みを行っているか。	S
10-1-5	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S

=====
基準11 社会貢献・地域貢献
=====

中項目11-1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【取り組み状況】

学校特性を活かし、福岡県立美術館と連携し、地域の芸術活動を醸成する地域貢献活動として作品展示活動を行った。その後も、美術館鑑賞などの行事にも繋がり、教育効果も高まった。文化的な活動に参加することで地域の活性化に繋がる活動に取り組むことができた。

【課題及びその改善方策】

ボランティア活動への参加が十分でないので、学生掲示板を活用して学生への周知を強化していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
11-1-1	学校の教育資源や施設を活用し、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S
11-1-2	学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援をしているか。	A

=====
基準12 国際交流
=====

中項目12-1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【取り組み状況】

留学生の在籍管理やビザ更新に関しては、国際交流センター、学生支援グループなど留学生担当部門と連携し法令遵守につとめており、留学生の就職支援においても就職支援グループと担任間で連携をとり包括的な支援を行っている。

留学生について必要な研修を受けた職員が担当となり、関係部門と連携し留学生の在留資格等適正な手続きと在籍管理が行われる体制を整備している。また、留学生用の相談できる体制として Microsoft Teams にて留学生グループを設置し情報の共有を図った。別途個別面談を行い日常の不安点などヒアリングを行った。

生活面においては留学生専用寮を設置しており、今年度は防災訓練を再開し、防災意識の向上も図っている。また、学生便覧の学則部分に外国人学生規程を明記し学生への周知と理解を促している。

コロナ禍での中断を経て、渡航留学プログラムは完全に再開している。ただし、渡航に不安のある学生向けにオンライン留学という選択肢は残している。麻生専門学校グループ内の留学担当部門が留学プログラムの学内説明会を行い、別途個別相談の場も設けている。申し込み者に対しては、オリエンテーションや英語勉強会を実施しており、また学生・保護者等向けの説明会では、渡航先情報や必要な準備、現地での心構え、たびレジ等の情報共有を行っている。学生とはチャット等の連絡ツールで常時連絡が取れるようにしており、質問や相談の受付、情報共有等を行っている。外部留学エージェント経由で留学する学生については、エージェントと渡航情報を共有し、必要に応じて学生本人や保護者等からの相談に対応している。

【課題及びその改善方策】

特に課題はないが、学生支援グループ・就職グループと連携して、就労ビザについての事例収集を行っていく。留学生向けの奨学金制度についても、案内漏れがないように学生掲示板を活用して周知を継続していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
12-1-1	留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	S
12-1-2	留学生の学修・生活指導等に対する適切な体制を整備しているか。	S
12-1-3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S